

3月16日に発生した福島県沖地震で 被災された皆さんにお見舞い申し上げます

中央本部は、被災した各地本の仲間へ緊急支援行動を行いました！



▼仙台地本、バス東北本部、仙台支部の仲間と被災状況などを意見交換しました。把握した課題の解決を目指します！



▲3月19日、常磐線の復旧に向けて奮闘している水戸地本に対し、代表して徳野書記長（中央）、上原組織部長（右）に災害支援金をお渡ししました！

▲3月17日、中央本部とバス関東本部は仙台地本に急行し、緊急支援行動として南出副委員長（左）に災害見舞金をお渡ししました！

すべての仲間と共に「福島県沖地震」震災復旧と22春闘をたたき抜く中央執行委員会「声明」

3月16日23時36分、福島県沖を震源とした大規模な地震が発生した。昨年2月の地震に続き、東日本大震災から11年を経てまた、3月11日を彷彿させるものであった。あらためて被災された皆さまに対してお見舞い申し上げます。そして、組合員や社員のみならず、関係者の皆さんが、震災復旧と代行輸送にご尽力いただいていることに感謝申し上げます。

賃金引き上げ第3回交渉は、前夜に地震が発生したこともあり、団体交渉の開催が危ぶまれた。結果的に団体交渉は開催されたが、団体交渉冒頭の席で、会社は「現在復旧作業やお客さまのご案内をおこなっている社員の皆さんへ感謝申し上げます。社員一丸で復旧にあたっていく必要がある」と述べた。JR東労組からも「早期の復旧、さらなる安全第一、安定した鉄道の輸送に全力で取り組んでいく」と述べ、労使が互いに尽力することを共通認識とした。現在、職場におけるたたき抜く中で組合員との対話や意見集約を通じて、団結力や組織力が高まっている。同時に震災復旧に向けて、私たちがおかれている現実を理解することも重要だ。

中央本部は、18日現地へ赴き、仙台地本の仲間と震災の現状と復旧状況、様々な課題を意見交換で向った。地震について、「11年前より揺れた。地鳴りがこれまでと違った」「昨年の地震で修繕した家屋がまた破損した」「もう少し揺れが長かったら3・11と同じだったかもしれない」「新幹線はこれまで震災を教訓にした安全対策があったから、あの被害で済んだのではないか。不幸中の幸いだ」という意見を伺い、地震の凄まじさや被災エリアの現実を直視した。同時に、脱線した新幹線からの避難誘導を秋田・仙台地方本部の組合員が担った報告を受け、頭が下がる思いである。

一方、職場からは「受信料を理由にテレビが撤去され、情報収集ができない」「タブレット頼りの業務なので停電が発生すると何も情報を得られなくなる。予備電源の確保が重要だ」「遠距離通勤対策は、柔軟に対応できないのか。現場での判断力も重要だ」など、コストカットや働き方の環境変化に基づく具体的な意見が出された。中央本部は、各地方本部と連携を取り、課題解決に向けて努力するものである。

また、バス東北の仲間からも「皆大変だがこういう時だからこそ協力していく。『言う時は言う、やる時はやる』この頑張りや春闘や期末手当につなげたい」と決意が述べられた。グループ各社で働く組合員が、大変な環境の中で奮闘している事を忘れてはならない。

いま22春闘と同時に福島県沖地震からの震災復旧と代行輸送、年度末決算など課題が山積している。特に新幹線復旧については、「困難を極める」とも言われているが、一方で組合員自身も被災しており、家族を含めた不安解消と生活の再建が急務である。JR東労組はこの様な時だからこそ、「抵抗とヒューマニズム」の精神で直面する2つの課題を乗り越えていく。1つ目は、22春闘に向けて、引き続き職場でのたたき抜くを強化し、会社回答における狙いについて議論を深め、組織強化・拡大を実現しよう。2つ目は、鉄道の復旧に向けて、余震にも警戒しながら「安全・健康・ゆとり」を基礎に組合員一人ひとりができることを実践しよう。

あらためて、福島県沖地震で被災され、亡くなられた皆さまに哀悼の意を捧げます。私たちは、22春闘のみならず、震災復旧に向けて奮闘する決意であることを述べ、声明とする。

2022年3月19日
東日本旅客鉄道労働組合
中央執行委員会

被災状況によって、総合共済給付申請ができます！

共済給付を申請する場合

- ・り災証明書
- ・被害状況写真
- ・事故調査報告書

が必要です。

※り災証明書が取れない場合は、領収証が必要です。



共済申請について、分からない点などは支部・地本までご相談下さい！

住宅災害給付について

《持ち家の場合》		《借家の場合(家財のみ)》	
給付区分	共済金	給付区分	共済金
全壊 (延面積70%以上)	50万円	全壊 (延面積70%以上)	20万円
半壊 (延面積40%以上)	30万円	半壊 (延面積40%以上)	12万円
一部損壊 (延面積20%以上)	7万円		
床下浸水で地盤面から30cmを超えるとき	2万円	一部損壊 (延面積20%以上)	3万円
被害額2万円を超えるとき	1万円	被害額2万円を超えるとき	1万円
自然災害で被害額が1万円を超えるとき	5千円	自然災害で被害額が1万円を超えるとき	5千円

▼分会掲示板で組合員や家族からの「労働実感」「生活実感」を訴えました！



◆「労働実感」の動きは、賃上げ相対的の程度を定期昇給相当分を算出した4割程度の賃金改善を求めた方針を示した。しかし、トヨタ自動車は3月9日、トヨタ自動車労働組合が要求した。

◆「労働実感」の動きは、賃上げ相対的の程度を定期昇給相当分を算出した4割程度の賃金改善を求めた方針を示した。しかし、トヨタ自動車は3月9日、トヨタ自動車労働組合が要求した。

定期昇給だけで妥協し続けていたら、生涯賃金はどんどん減らされる！ 労働者としての自覚を持ち、組合員や全国の仲間と連帯してたたかおう！

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

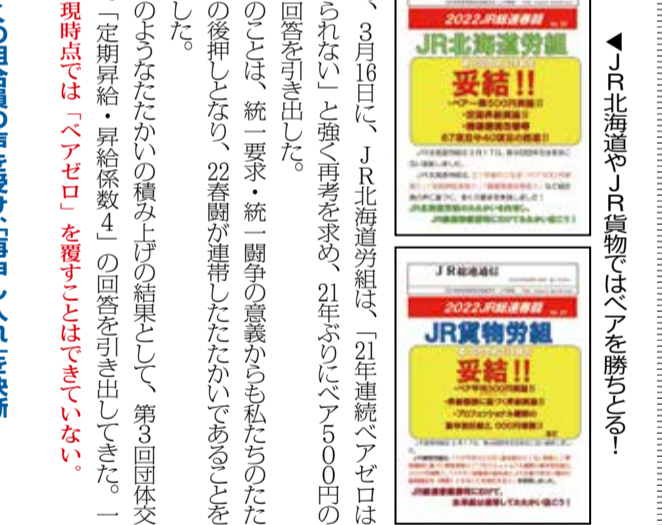
◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」

◆21春闘の敗北を教訓に「22春闘を闘おう」



▲本部交渉団への数多くの激励をいただきました！

(上)盛岡新幹線運輸区分会・東京新幹線運輸区分会
(下)大宮地本・浦和支部



▲JR北海道やJR貨物ではへそ勝つてくる！

組合員の声を集約した申21号「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

申21号「組合員の声に基づき総合労働条件改善の実現を求める申し入れ」について、3回（2月21日、3月1日、3月4日）にわたって団体交渉を行いました。

21春闘においてJR総連の各支部は、ベアゼロでしたが、労働条件の改善等、多くの成果を勝ち取ったばかりです。昨秋に「総合労働条件改善のたたき」について提起し、各職場から要求集約と実現に向けた取り組みを通じて、22春闘のたたきを同時に進めたいという思いが強くありました。

要求集約については、総対話や座談会などを行いながら組合員から要求を集約し、職場で改善できるもの、地本や支部で改善できるものを調査し、本部には8,000件を超える組合員の声が届きました。申21号では、この申し入れを17項目の医療・関係する申し入れに集約し、申3号「安全と安心して働ける職場環境の実現に向けた申し入れ」の議論と併せて行うことを確認しているため、28項目に対して交渉で組合員の声を実現に向けて議論してまいりました。

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！

◆「総合労働条件改善」の実現を求め団体交渉を行う！